

# 委託事業実施内容報告書

## 平成27年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業 【地域日本語教育実践プログラム(A)】 実施内容報告書

受託団体名 公益財団法人東広島市教育文化振興事業団

### 1. 事業名称

日本語による発信能力養成のための日本語教育事業

### 2. 事業の目的

東広島市内に在住する外国人市民が、生活するための日本語能力だけでなく、その日本語を使って、東広島に親しみを持つための知識を得、さらに自らの意見を発信するための日本語力を養う。

- 日本語を使って、コミュニケーションをすることで、外国人市民、ボランティア双方が地域の文化や習慣に関心を持ち、地域の一員であるという自覚を促す。また、自国文化や自分の考えを発信するためのノウハウを得る。
- 学習者の話を引き出すためのコミュニケーションの方法を知る。
- 初級中盤から後半レベルの人を対象とし、生活や地域文化を知らせ、それについて考えさせ、自分の考えを話し、書く能力を養成するための教科書を作成する。

### 3. 事業内容の概要

- 日本語教育: 市南部沿海地域および内陸地域において、ボランティアと話をしながら日本語を学習する交流型の教室を行った。学習者の日常生活から出てきた疑問や生活情報、東広島市の文化事情などをとり上げ、日本語を話す機会を提供し、電子媒体に、東広島市で見聞きしたこと、自分がどのように感じながら東広島市で生活しているかなどについて自分の意見を発信することを目指した。
- 人材養成研修: 外国人とのコミュニケーションをどううまく行かせるかを全体のテーマとした。傾聴の方法、やさしい日本語での会話や日本語指導のスキルを学び、DVDで日本語サポートの様子を観察した後、実際に学習者と話してみるなどの方法により、学習者の話を引き出し、話すことで日本語を上達させるための方法を学ぶ講習会をおこなった。
- 教材作成: 自分の考えや感じ方、要求などを相手に伝える能力を養成するための教材を作成した。トピックシラバスとし、日本、東広島の生活や文化について情報を得、それを把握整理して、自分の意見を話し、書く能力を養成するための教材である。最終的には、電子媒体を利用して東広島の生活や文化・社会事情について自分の考えや思いを発信することを目指した。

### 4. 事業の実施体制について

東広島市企画課からは事業内容への助言、教室や人勢養成講座の市内外への周知に協力を得た。漁業組合など実習生受け入れ組合とも連携し、教室開催を周知した。広島大学の教師からは、学生に対するボランティアの募集などの協力を得た。全体コーディネーター(間瀬)は本事業の企画立案を行い、運営委員会を開催するなど、他の中核メンバーと連絡を密にして本事業を遂行し、会計処理など事務的な内容については井山が担当した。日本語教育については奥村が教室コーディネーターとして、教室運営に当たった。人材養成研修において、吉本が間瀬とともに講習会の内容について検討、決定するとともに、講師として講座を担当した。教材作成では、大角が進捗状況を把握し、間瀬と協力して全体としてまとまりのある教材にした。

### 5. 運営委員会の開催について

#### 【運営委員】

|   |             |    |                        |
|---|-------------|----|------------------------|
| 1 | 吉本由美        | 所属 | 広島国際学院大学               |
| 2 | ダックワース・ネイサン | 所属 | BJ Club English School |
| 3 | 井口安成        | 所属 | 東広島市企画課                |
| 4 | 木原賀彦        | 所属 | (公財)東広島市教育文化振興事業団      |
| 5 | 間瀬尹久        | 所属 | (公財)東広島市教育文化振興事業団      |

#### 【概要】

| 回数 | 開講日時                         | 時間数 | 場所                   | 出席者                            | 議題及び検討内容   |
|----|------------------------------|-----|----------------------|--------------------------------|--|
| 1  | 平成27年4月17日<br>(金)9:30~11:40  | 2時間 | 東広島市市民文化センター<br>研修室2 | 吉本由美、ダックワースネイサン、井口安成、木原賀彦、間瀬尹久 | 事業内容について概要説明。質疑、意見聴取   |
| 2  | 平成27年10月26日<br>(金)9:30~11:40 | 2時間 | 東広島市市民文化センター<br>研修室3 | 吉本由美、ダックワースネイサン、井口安成、木原賀彦、間瀬尹久 | 各事業について進捗状況の説明及び課題(1. また、ボランティアの中には支援に向かないと思われる人も教室に参加している。どのように対処するか。2. ボランティア講習会全参加者が少ない。少なくとも半分以上の会への参加を望みたい)の提示。 |
| 3  | 平成28年3月1日<br>9:30~11:30      | 2時間 | 東広島市市民文化センター<br>研修室2 | 吉本由美、ダックワースネイサン、井口安成、木原賀彦、間瀬尹久 | 事業内容について、成果物や各講座のアンケート結果などについての報告。各委員からの質疑、意見など聴取。   |

## 6. 日本語教育の実施

### A. 安芸津教室

#### (1) 活動名称

市民同士の交流による発信型日本語教室(安芸津)

#### (2) 目的・目標

日本・東広島市の生活や文化についてわかったことや意見を自分の日本語で発表する。そのために下記の3点を目標とする  
 ①ボランティアと話したり、基礎レベルの日本語で書かれた文をよんだりして日本や東広島市の生活・文化や社会事情について知識を得る。  
 ②①で得たことについて自分の国と比較したり、感想を言うことができる。  
 ③考えたことを日本語で書くことができる。

#### (3) 対象者

東広島市内に在住、もしくは就労する日本語を母語としない市民。ボランティアとして日本語活動のサポートを希望する日本語を母語とする市民。

#### (4) 使用した教材・リソース

オリジナル教材、「できる日本語わたしのことばノート」(凡人社)、「せいかつのにほんごⅠ、Ⅱ」(東広島市教育文化振興事業団オリジナル教材)、本年度当事業において作成中のテキスト、しまね国際センターホームページ(<http://www.sic-info.org>)、その他

(5) 参加者の総数 37人

そのうちの日本語学習者数 27人

#### 【出身・国籍別内訳】

|      |     |        |     |  |
|------|-----|--------|-----|--|
| 中国   | 15人 | インドネシア | 1人  | ※他の国籍の場合は以下に国籍と人数を記載してください<br>・イラン1人<br>・<br>・ |
| 韓国   | 人   | タイ     | 人   |  |
| ブラジル | 人   | ペルー    | 人   |  |
| ベトナム | 5人  | フィリピン  | 5人  |  |
| ネパール | 人   | 日本     | 10人 |  |

(6) 開催時間数(回数) 2時間 (全32回)

#### (7) 日本語教育の実施内容

| 回数 | 開講日時                          | 時間数 | 場所           | 受講者数 | 取組のテーマ                          | 授業概要                                      | 指導者名 | 補助者名 |
|----|-------------------------------|-----|--------------|------|---------------------------------|---|------|------|
| 1  | 平成27年6月5日(金)<br>18:30~20:30   | 2   | 安芸津B&G海洋センター | 2人   | 安芸津教室を知ろう                       | 教室の基本情報(時間、場所、内容、Facebookなど)を確認する         | 奥村玲子 | 齋歆   |
| 2  | 平成27年6月12日(金)<br>18:30~20:30  | 2   | 安芸津B&G海洋センター | 2人   | 自己紹介                            | ・自己紹介シートを書き発表する<br>・自分の言語について話す           | 奥村玲子 | 齋歆   |
| 3  | 平成27年6月19日(金)<br>18:30~20:30  | 2   | 安芸津B&G海洋センター | 5人   | 健康:熱中症                          | ・熱中症とその予防法を知る<br>・最近の流行病について話す            | 奥村玲子 | 齋歆   |
| 4  | 平成27年6月26日(金)<br>18:30~20:30  | 2   | 安芸津B&G海洋センター | 2人   | 生活:コンビニエンスストア                   | ・日本のコンビニについて知る<br>・自国のコンビニを紹介する           | 奥村玲子 | 齋歆   |
| 5  | 平成27年7月3日(金)<br>18:30~20:30   | 2   | 安芸津B&G海洋センター | 6人   | 余暇:スポーツ                         | ・スポーツの名前を覚える<br>・好きなスポーツを紹介する             | 奥村玲子 | 齋歆   |
| 6  | 平成27年7月10日(金)<br>18:30~20:30  | 2   | 安芸津B&G海洋センター | 3人   | 安全:自転車のルール                      | ・自転車の安全な乗り方を知る<br>・自転車のルールを学ぶ             | 奥村玲子 | 齋歆   |
| 7  | 平成27年7月24日(金)<br>18:30~20:30  | 2   | 安芸津B&G海洋センター | 6人   | 安全:台風について知る<br>語彙:形容詞           | ・台風についての短い記事を読む<br>・語彙を増やす(錯視図→形容詞)       | 奥村玲子 | なし   |
| 8  | 平成27年9月4日(金)<br>18:30~20:30   | 2   | 安芸津B&G海洋センター | 3人   | 年中行事:敬老の日                       | ・敬老の日及び日本の休日を知る<br>・日本の高齢化問題を知る           | 奥村玲子 | 高慧珠  |
| 9  | 平成27年9月11日(金)<br>18:30~20:30  | 2   | 安芸津B&G海洋センター | 5人   | 安全:水害<br>健康診断(1)<br>(本年度作成教材使用) | ・水害(関東)の記事を読む(やさしい日本語)<br>・健康診断の語彙を知る     | 奥村玲子 | 高慧珠  |
| 10 | 平成27年9月25日(金)<br>18:30~20:30  | 2   | 安芸津B&G海洋センター | 4人   | 健康(2):健康診断<br>(本年度作成教材使用)       | ・健康診断の重要性を理解する<br>・血圧、視力などの測定を実施          | 奥村玲子 | 齋歆   |
| 11 | 平成27年10月2日(金)<br>18:30~20:30  | 2   | 安芸津B&G海洋センター | 4人   | 余暇:大久野島へ行こう                     | ・交通手段について知る<br>・日本→母国の行き方を説明する            | 奥村玲子 | 齋歆   |
| 12 | 平成27年10月9日(金)<br>18:30~20:30  | 2   | 安芸津B&G海洋センター | 6人   | 生活:マイナンバー                       | ・マイナンバーについて知る<br>・自国のIDを紹介する              | 奥村玲子 | 齋歆   |
| 13 | 平成27年10月16日<br>(金)18:30~20:30 | 2   | 安芸津B&G海洋センター | 4人   | 生活:賞味期限、消費期限                    | ・二つの違い、言葉の意味を知る<br>・自分の方法を説明する            | 奥村玲子 | 齋歆   |
| 14 | 平成27年10月23日<br>(金)18:30~20:30 | 2   | 安芸津B&G海洋センター | 5人   | 安全:個人情報<br>(本年度作成教材使用)          | ・個人情報の重要性を理解する<br>・自分の経験を話す               | 奥村玲子 | 齋歆   |
| 15 | 平成27年10月30日<br>(金)18:30~20:30 | 2   | 安芸津B&G海洋センター | 3人   | 生活:世界のお金                        | ・日本のお金を知る<br>・自国のお金を紹介する<br>・数字の言い方を再確認する | 奥村玲子 | 齋歆   |

|    |                               |   |              |     |                          |   |      |     |
|----|-------------------------------|---|--------------|-----|--------------------------|---|------|-----|
| 16 | 平成27年11月6日(金)<br>18:30~20:30  | 2 | 安芸津B&G海洋センター | 4人  | 生活:日本の食事マナー              | ・日本の食事マナーを知る<br>・自国の食事マナーと比較する                    | 奥村玲子 | 齋歎  |
| 17 | 平成27年11月13日(金)<br>18:30~20:30 | 2 | 安芸津B&G海洋センター | 3人  | 文化:日本食について(本年度作成教材使用)    | ・日本食について知る<br>・どんな料理が日本食か話し合う                     | 奥村玲子 | 齋歎  |
| 18 | 平成27年11月20日(金)<br>18:30~20:30 | 2 | 安芸津B&G海洋センター | 2人  | 生活、文化:結婚について             | ・結婚について価値観を話し合う<br>・自分の例を紹介する                     | 奥村玲子 | 齋歎  |
| 19 | 平成27年11月27日(金)<br>18:30~20:30 | 2 | 安芸津B&G海洋センター | 4人  | 語彙:仲間分け「わたしのことばノート」      | ・日常的な語彙に注目し区別する<br>・語彙を増やす                        | 奥村玲子 | 齋歎  |
| 20 | 平成27年12月4日(金)<br>18:30~20:30  | 2 | 安芸津B&G海洋センター | 4人  | 余暇(生活):ビール               | ・ビール、発泡酒のちがいを知る<br>・好きな飲料について紹介する                 | 奥村玲子 | 齋歎  |
| 21 | 平成27年12月11日(金)<br>18:30~20:30 | 2 | 安芸津B&G海洋センター | 5人  | 語彙:形容詞「私のことばノート」         | ・形容詞:反対の意味の言葉を整理する                                | 奥村玲子 | 齋歎  |
| 22 | 平成27年12月18日(金)<br>18:30~20:30 | 2 | 安芸津B&G海洋センター | 8人  | 地域:安芸津について               | ・地元について知る<br>・安芸津の良いところを発見する                      | 奥村玲子 | 齋歎  |
| 23 | 平成27年12月25日(金)<br>18:30~20:30 | 2 | 安芸津B&G海洋センター | 6人  | 年中行事:大みそか                | ・大みそかについて知る<br>・自国の大みそかを紹介する                      | 奥村玲子 | 齋歎  |
| 24 | 平成28年1月8日(金)<br>18:30~20:30   | 2 | 安芸津B&G海洋センター | 6人  | 年中行事:成人式                 | ・成人の意味を考える(できること)<br>・飲酒、選挙年齢などを自分の国と比較する         | 奥村玲子 | 齋歎  |
| 25 | 平成28年1月15日(金)<br>18:30~20:30  | 2 | 安芸津B&G海洋センター | 6人  | 安全:119通報(本年度作成教材使用)      | ・119番通報の言葉を学ぶ<br>・通報練習をする(ロールプレー)                 | 奥村玲子 | 齋歎  |
| 26 | 平成28年1月22日(金)<br>18:30~20:30  | 2 | 安芸津B&G海洋センター | 3人  | 生活:ライフプラン(1)             | ・退職後のプランを話す<br>・ライフプランに関する語彙を学ぶ                   | 奥村玲子 | 齋歎  |
| 27 | 平成28年1月29日(金)<br>18:30~20:30  | 2 | 安芸津B&G海洋センター | 3人  | 個別①退職について(2)<br>個別②119通報 | 出席状況に応じて個別課題を学習<br>*119番通報は第25回の欠席者               | 奥村玲子 | 齋歎  |
| 28 | 平成28年2月5日(金)<br>18:30~20:30   | 2 | 安芸津B&G海洋センター | 4人  | 個別①認知症(3)<br>個別②119番通報   | 出席状況に応じて個別課題を学習<br>*119番通報は新規出席者                  | 奥村玲子 | 高替珠 |
| 29 | 平成28年2月12日(金)<br>18:30~20:30  | 2 | 安芸津B&G海洋センター | 5人  | 健康:インフルエンザ               | ・インフルエンザについて学ぶ<br>・流行、症状、予防について知る<br>・医者での会話を練習する | 奥村玲子 | なし  |
| 30 | 平成28年2月19日(金)<br>18:30~20:30  | 2 | 安芸津B&G海洋センター | 5人  | 文化:迷信、言い伝え               | ・迷信、言い伝えについて学ぶ<br>・自国の言い伝えなどを紹介する                 | 奥村玲子 | 高替珠 |
| 31 | 平成28年3月4日(金)<br>18:30~20:30   | 2 | 安芸津B&G海洋センター | 4人  | 語彙「わたしのことばノート」           | ・家にある物の名前を確認する<br>・なにをしていますか                      | 奥村玲子 | 高替珠 |
| 32 | 平成28年3月11日(金)<br>18:30~20:30  | 2 | 安芸津B&G海洋センター | 13人 | 安全:災害時の避難(本年度作成教材使用)     | ・災害時の避難について知る<br>・安芸津の避難所を確認する                    | 奥村玲子 | 高替珠 |

### (8) 特徴的な活動風景(2~3回分)

【第22回 2016年12月18日】

#### 1.テーマ:安芸津を知ろう

・参加者Sさんの最終日だったので、在安芸津の記憶を手繰るとい趣旨で地元を知る機会を設定した。

・名所、名物をだけでなく、安芸津における外国人の存在理由(意義)に焦点を当てた。

2.目標:①自分が生活している地域を知り、良いところを説明できる②自分が安芸津にいる意味と意義を知る

3.授業形態:①学習者2~3人と日本人ボランティア1人の小グループでワークシートをもとに話し合い②全体で共有

4.教材:コーディネーター作成のワークシート(地理(位置、地名)、地場産業、名産、交通、人口(技能実習生人口と高齢化))

5.流れ:①全体で学習テーマを共有②ワークシート記入③②をもとに小グループで話し合い④安芸津について発表⑤振り返りと送別会

#### 6.特記事項

・学習者は地域への関心が薄い人が多い。しかし彼らは牡蠣養殖、造船など地場産業の技能実習生がほとんどであり、共に働く人たちは多くが安芸津の人々である。仕事のためにも地元理解は不可欠である。

・「自分は地域にとって必要な存在であることを知ることができた」という感想があった。

・安芸津の名物を数種類試食した。初めて食べた人が多く、新たな発見となった。

・送別会中に、全員Sさんへの色紙を書いた。安芸津教室では、本事業の目標③「書く」は困難が多かったが、共に学んだ仲間への気持ちが「書く」につながった。言葉の学習における動機づけの重要性を再確認した。



## 取組事例②

【第29回 2017年2月12日】

1.テーマ:インフルエンザ

2.目標:インフルエンザの対応方法を知る①流行、症状、予防方法を知る②医者での会話に慣れる

3.授業形態:①学習者2~3人と日本人ボランティア1人の小グループワーク②全体で共有(発表、会話練習を含む)

4.教材:しまね国際センターホームページ

(<http://www.pref.shimane.lg.jp/life/international/kouryu/kokusai/gaikokujinnsienn/regular-influenza.html>)

5.流れ:①全体でテーマを共有②教材を元に小グループで話し合い③母国の事情を発表する④ボランティア(医者)と学習者(患者)でロールプレー(順番に全員の前で行う)⑤振り返り

6.特記事項

・中国、インドネシア、ベトナム、フィリピンで流行時期に微妙なずれがあることがわかった。

・南国出身者はインフルエンザへの危機感が薄かった。フィリピンの学習者が「インフルエンザはニワトリの病気だと思っていた」と語り、みんなを驚かせた。

・症状の言い方をしっかり練習できた。

・ロールプレーは医者(ボランティア)、患者(学習者)という設定だけで自由会話とした。ボランティアが臨機応変な会話を行ったので、実際に近い会話練習ができた。見ているボランティア、学習者から多くの声かけがあった。

・医者役をボランティアが担当したが、学習者にもやらせるべきだった。自分が言うことで、医者との問いかけへの理解が進むだろう。次回はやってみたい。



### (9) 目標の達成状況・成果

1.検証方法:ABCを総合的に評価した(A:コーディネーター作成のアンケート B:教室での活動状況 C:Facebookなどの利用状況)

2.達成状況:目標①②③について

目標①:概ね達成できた

(1)生活、文化、社会事情に関するテーマを取り上げ教材を準備した。地元テーマ2回(安芸津、大久野島)に加えて水害、台風、自転車、コンビニなどのテーマでも安芸津の地域特性を積極的に取り上げた。これらのテーマについて、毎回学習者とボランティアがペア(または小グループ)を作り、1時間の会話を行った。

(2)4名が、アンケートで「聞くことがうまくなった」と回答した。毎回1時間の話し合いをすることで日本や地域社会、文化に対する理解が深まった。

目標②:概ね達成できた

迷信、お金、マイナンバー、スポーツ、成人式などのテーマで、学習者は母国事情や日本との比較を話すことができた。

目標③:自分の意見を書くことはかなり困難であった

ほとんどの学習者が日本語で「書く」ことは困難だった。学習者の日本語能力が不十分であること、生活で「書く」ことに対する動機が低いことの2つの原因が考えられる。それでもテーマ学習では、学習者の発言をボランティアが聞き助けながら書く、簡単な文型を与えるなどサポート方法を工夫し、毎回書く試みを続けた。

3.事業全体の目的:「自国文化や自分の考えを発信するためのノウハウを得る」について

(1)Facebookに日本語教室のグループを開設したが、中国、インドネシアの学習者はFacebookを利用していなかった。フィリピン、ベトナムの学習者は利用しており、コーディネーターの投稿は毎回閲覧し、反応することもあった。

(2)メッセージ機能を用いて、ローマ字書きの日本語で複数回質問を送ってきた学習者がいた。「文化や考えの発信」まではいかないが、質問という形の発信はすることができた。「知らなければ困る」という強い動機が「書き」につながった。これは本年度事業の成果の一つである。

4.行動への結びつき

安芸津は交通の便が悪く、学習者たちは自主的に外出しにくい環境にある。教室では安芸津の交通について、たびたび触れた。学習者の中には、実際に電車やバスで外出したり、より詳しい情報を求めてくる者もいた。学習内容が学習者の自主的行動に結びついたことは教室活動の成果の一つと考える。

(10) 今後の改善点について

1.学習内容

- (1) 体験をともなう学習活動が少ない。図書館、病院、交通機関などに実際に出かけていきたいと考えるが、金曜日夜という時間設定では難しい。一方で、ボランティアが地域の行事に誘い、参加した学習者もいた。地域での見聞を広げ、日本語を実際に使う機会を増やせるよう、行事への参加などの働きかけを行いたい。
- (2) 基本的な「書き」の練習が不足していた。学習者のレベルに合わせて文型限定(11回のような)など工夫が必要である。
- (3) 語彙に焦点を絞った学習(主に「わたしのことばノート」使用)を5回行った。単なるドリル学習ではなく、全員で話し合いながら進めたので5回とも好評だった。学習者のレベルから見て、定期的な語彙学習、文法学習は必要である。来年度は計画的に組み入れたい。
- 2.補助者:中国語母語の補助者が教室に参加した。学習者の聴き取り能力が向上した後も、通訳のタイミングが早いという問題が発生したが、コーディネーター、ボランティアからの指摘で改善した。補助者は通訳ではないという共通認識を徹底する必要がある。
- 3.ボランティア:安芸津在住のボランティアが減少気味なので周知方法を再考する必要がある。
- 4.発信:牡蠣養殖の中国人技能実習生はFacebookをほとんど使わない。安芸津の学習者が可能な「発信」方法を把握し、学習内容を再考する必要がある。

B.黒瀬教室

(1) 活動名称

市民同士の交流による発信型日本語教室(黒瀬)

(2) 目的・目標

日本・東広島市の生活や文化についてわかったことや意見を自分の日本語で発表する。そのためにつぎの3点を目標とする。  
 ①ボランティアと話したり、基礎レベルの日本語で書かれた文をよんだりして日本や東広島的生活・文化や社会事情について知識を得る。  
 ②①で得たことについて自分の国と比較したり感想を言うことができる  
 ③考えたことを日本語で書くことができる

(3) 対象者

東広島市内に在住、もしくは就労する日本語を母語としない市民。ボランティアとして日本語活動のサポートを希望する日本語を母語とする市民

(4) 使用した教材・リソース

オリジナル教材、「せいかつのにほんごⅠ、Ⅱ」(東広島市教育文化振興事業団オリジナル教材)、本年度当事業において作成中のテキスト

(5) 参加者の総数 67 人

そのうちの日本語<sup>②</sup> 54 人

【出身・国籍別内訳】

|      |     |        |     |  |
|------|-----|--------|-----|--|
| 中国   | 8人  | インドネシア | 人   | ※他の国籍の場合は以下に国籍と人数を記載してください。<br>・インド1人<br>・ルワンダ1人 |
| 韓国   | 人   | タイ     | 1人  |  |
| ブラジル | 2人  | ペルー    | 人   |  |
| ベトナム | 41人 | フィリピン  | 人   |  |
| ネパール | 人   | 日本     | 13人 |  |

(6) 開催時間数(回数) 2 時間 (全 34 回)

(7) 日本語教育の実施内容

| 回数 | 開講日時                         | 時間数 | 場所             | 受講者数 | 取組のテーマ        | 授業概要  | 指導者名 | 補助者名        |
|----|------------------------------|-----|----------------|------|---------------|---|------|-------------|
| 1  | 平成27年4月19日(日)<br>14:00~16:00 | 2   | 東広島市黒瀬生涯学習センター | 9人   | オリエンテーション1    | ・アンケート記入<br>・自己紹介(シート記入)<br>・自由会話               | 奥村玲子 | グエン・マン・ティエン |
| 2  | 平成27年4月26日(日)<br>14:00~16:00 | 2   | 東広島市黒瀬生涯学習センター | 2人   | オリエンテーション2    | ・アンケート記入<br>・自己紹介(シート記入)<br>・自由会話               | 奥村玲子 | グエン・マン・ティエン |
| 3  | 平成27年5月10日(日)<br>14:00~16:00 | 2   | 東広島市黒瀬生涯学習センター | 9人   | 余暇:ゴールデンウィーク  | ・ゴールデンウィークにやったこと<br>・書く「ゴールデンウィークに行ったところ、やったこと」 | 奥村玲子 | グエン・マン・ティエン |
| 4  | 平成27年5月17日(日)<br>14:00~16:00 | 2   | 東広島市黒瀬生涯学習センター | 7人   | 黒瀬教室紹介        | ・黒瀬教室を紹介する<br>・書く「黒瀬教室紹介」(Facebook投稿を想定)        | 奥村玲子 | なし          |
| 5  | 平成27年5月31日(日)<br>14:00~16:00 | 2   | 東広島市黒瀬生涯学習センター | 7人   | 生活:インターネット    | ・インターネットについて理解する<br>・書く「私のインターネット利用法」           | 奥村玲子 | グエン・マン・ティエン |
| 6  | 平成27年6月7日(日)<br>14:00~16:00  | 2   | 東広島市黒瀬生涯学習センター | 3人   | 文化:結婚式について    | ・日本の結婚式について知る<br>・自国の結婚式を紹介する                   | 奥村玲子 | なし          |
| 7  | 平成27年6月14日(日)<br>14:00~16:00 | 2   | 東広島市黒瀬生涯学習センター | 10人  | 健康:熱中症        | ・熱中症と予防法について知る<br>・シート記入「私の熱中症対策」               | 奥村玲子 | グエン・マン・ティエン |
| 8  | 平成27年6月21日(日)<br>14:00~16:00 | 2   | 東広島市黒瀬生涯学習センター | 17人  | 生活:日本の料理      | ・日本料理レシピを読む→体験へ<br>・時間外体験「日本の料理を作り食べる」→感想を述べる   | 奥村玲子 | なし          |
| 9  | 平成27年6月28日(日)<br>14:00~16:00 | 2   | 東広島市黒瀬生涯学習センター | 5人   | 生活:コンビニエンスストア | ・コンビニでできることを知る<br>・書く「自分の生活とコンビニ」               | 奥村玲子 | グエン・マン・ティエン |
| 10 | 平成27年7月5日(日)<br>14:00~16:00  | 2   | 東広島市黒瀬生涯学習センター | 6人   | 余暇:スポーツ       | ・スポーツの日本語名を知る<br>・書く「好きなスポーツ」                   | 奥村玲子 | グエン・マン・ティエン |

|    |                                   |   |                    |     |                           |  |      |                 |
|----|-----------------------------------|---|--------------------|-----|---------------------------|--|------|-----------------|
| 11 | 平成27年7月12日(日)<br>14:00~16:00      | 2 | 東広島市黒瀬生涯<br>学習センター | 14人 | 安全:自転車の乗り方                | ・自転車のルールを確認する<br>・書く「ヒヤッとした経験」                             | 奥村玲子 | グエン・マン・<br>ティエン |
| 12 | 平成27年7月19日(日)<br>14:00~16:00      | 2 | 東広島市黒瀬生涯<br>学習センター | 14人 | 文化:自分の名前                  | ・自分の名前について説明する<br>・書く「私の名前」                                | 奥村玲子 | グエン・マン・<br>ティエン |
| 13 | 平成27年8月9日(日)<br>14:00~16:00       | 2 | 東広島市黒瀬生涯<br>学習センター | 8人  | 年中行事、地域:お盆                | ・広島県独特の盆灯籠を知る<br>・書く「自国のお盆、お墓参り」                           | 奥村玲子 | グエン・マン・<br>ティエン |
| 14 | 平成27年8月23日(日)<br>14:00~16:00      | 2 | 東広島市黒瀬生涯<br>学習センター | 7人  | 余暇、地域:宮島、世界遺産             | ・宮島について知る<br>・書く「私の宮島体験」(行ったことのない人は「おすすめ観光地」)              | 奥村玲子 | グエン・マン・<br>ティエン |
| 15 | 平成27年9月6日(日)<br>14:00~16:00       | 2 | 東広島市黒瀬生涯<br>学習センター | 7人  | 年中行事:敬老の日                 | ・敬老の日、高齢化などを話し合う<br>・書く「高齢化問題」                             | 奥村玲子 | グエン・マン・<br>ティエン |
| 16 | 平成27年9月13日(日)<br>14:00~16:00      | 2 | 東広島市黒瀬生涯<br>学習センター | 5人  | 安全:水害と警報                  | ・関東の水害記事を読む<br>・書く「自国の自然災害」                                | 奥村玲子 | グエン・マン・<br>ティエン |
| 17 | 平成27年9月27日(日)<br>14:00~16:00      | 2 | 東広島市黒瀬生涯<br>学習センター | 6人  | 健康:健康診断(本年度作成<br>教材使用)    | ・健康診断の重要性を知り、用語を理解する<br>・体験:血圧測定、視力検査<br>・書く「健康診断について」     | 奥村玲子 | グエン・マン・<br>ティエン |
| 18 | 平成27年10月4日(日)<br>14:00~16:00      | 2 | 東広島市黒瀬生涯<br>学習センター | 10人 | 地域:西条酒まつり                 | ・東広島市最大の行事について理解を深める<br>・書く「好きな飲み物」                        | 奥村玲子 | グエン・マン・<br>ティエン |
| 19 | 平成27年10月18日<br>(日)<br>14:00~16:00 | 2 | 東広島市黒瀬生涯<br>学習センター | 5人  | 生活:マイナンバー                 | ・マイナンバーについて理解する<br>・自国と日本のIDカードを比較する<br>・書く「自国のIDカードを紹介する」 | 奥村玲子 | なし              |
| 20 | 平成27年11月1日(日)<br>14:00~16:00      | 2 | 東広島市黒瀬生涯<br>学習センター | 7人  | 安全:個人情報<br>(本年度作成教材使用)    | ・個人情報管理について理解する<br>・書く「自分の暗証番号の決め方」                        | 奥村玲子 | なし              |
| 21 | 平成27年11月15日<br>(日)<br>14:00~16:00 | 2 | 東広島市黒瀬生涯<br>学習センター | 8人  | 生活:訪問時のマナー(本年<br>度作成教材使用) | ・日本人宅を訪問する時のマナーを理解する<br>・マナーにそった会話ロールプレー                   | 奥村玲子 | グエン・マン・<br>ティエン |
| 22 | 平成27年11月22日<br>(日)<br>14:00~16:00 | 2 | 東広島市黒瀬生涯<br>学習センター | 4人  | 生活:お金について                 | ・いろいろな国のお金を理解する<br>・自国のお金を紹介する                             | 奥村玲子 |                 |
| 23 | 平成27年12月6日(日)<br>14:00~16:00      | 2 | 東広島市黒瀬生涯<br>学習センター | 2人  | 生活:右と左                    | ・身体の特徴を理解する<br>・実際に体験して、その感覚を日本語で表現する                      | 奥村玲子 | グエン・マン・<br>ティエン |
| 24 | 平成27年12月13日<br>(日)<br>14:00~16:00 | 2 | 東広島市黒瀬生涯<br>学習センター | 13人 | 生活、文化:ベトナム料理              | ・ベトナム料理について日本人に説明する<br>・材料の日本名を覚え、書く                       | 奥村玲子 | なし              |
| 25 | 平成27年12月20日<br>(日)<br>14:00~16:00 | 2 | 東広島市黒瀬生涯<br>学習センター | 3人  | 年中行事:大みそか                 | ・日本の年末の風物詩を学ぶ<br>・自国の年末について紹介する<br>・書く「自国の大みそか」            | 奥村玲子 | なし              |
| 26 | 平成28年1月10日(日)<br>10:00~12:00      | 2 | 東広島市黒瀬生涯<br>学習センター | 8人  | 年中行事:日本の新年                | ・日本の新年について学ぶ<br>・時間外体験「日本の伝統的アクティビティ」                      | 奥村玲子 | グエン・マン・<br>ティエン |
| 27 | 平成28年1月17日(日)<br>14:00~16:00      | 2 | 東広島市黒瀬生涯<br>学習センター | 2人  | 生活:しごとのマナー                | ・日本の会社で働く時のマナーを話し合う  | 奥村玲子 | グエン・マン・<br>ティエン |
| 28 | 平成28年1月24日(日)<br>14:00~16:00      | 2 | 東広島市黒瀬生涯<br>学習センター | 2人  | 自分を語る                     | ・これまでの日本の生活を振り返る<br>・書く:「日本での生活」(スピーチコンテスト参加者は原稿として)       | 奥村玲子 | なし              |
| 29 | 平成28年2月7日(日)<br>17:00~19:00       | 2 | 東広島市黒瀬生涯<br>学習センター | 7人  | 自分を語る                     | ・スピーチコンテストの振り返り<br>*(時間外で庄原市スピーチコンテストと新年会に参加)              | 奥村玲子 | なし              |
| 30 | 平成28年2月14日(日)<br>14:00~16:00      | 2 | 東広島市黒瀬生涯<br>学習センター | 4人  | 文化:迷信、言い伝え                | ・迷信、言い伝えなどを理解する<br>・書く「私が知っている、実行する言い伝え」                   | 奥村玲子 | 劉滢華             |
| 31 | 平成28年2月21日(日)<br>14:00~16:00      | 2 | 東広島市黒瀬生涯<br>学習センター | 2人  | 地域:酒蔵通り                   | ・地域の地場産業を理解する<br>・書く「酒蔵通りで買える物」                            | 奥村玲子 | グエン・マン・<br>ティエン |
| 32 | 平成28年3月6日(日)<br>14:00~16:00       | 2 | 東広島市黒瀬生涯<br>学習センター | 2人  | 文化:日本の歌の歌詞を読<br>もう        | ・「家山子」(さだまさし)の歌詞を読む<br>・内容や言葉について話し合う                      | 奥村玲子 | グエン・マン・<br>ティエン |
| 33 | 平成28年3月6日(日)<br>14:00~16:00       | 2 | 東広島市黒瀬生涯<br>学習センター | 5人  | 地域:西条の観光案内につ<br>いて知る      | ・ボランティアガイドについて知る<br>・ガイドに必要な知識を学ぶ                          | 奥村玲子 | グエン・マン・<br>ティエン |
| 34 | 平成28年3月13日(日)<br>10:00~12:00      | 2 | 東広島市黒瀬生涯<br>学習センター | 6人  | 隣接地域を知る                   | ・広島県呉市の概要を知る<br>・呉市の外国人事情を知り視野を広げる                         | 奥村玲子 | グエン・マン・<br>ティエン |

## (8) 特徴的な活動風景(2~3回分)

### 取組事例①

【第12回 2015年7月19日】

1.テーマ:自分の名前

2.目標:①自分の名前について日本人に説明できる②自分の名前の意味、漢字、エピソードなどを書くことができる

3.授業形態:①学習者2~3人と日本人ボランティア1人の小グループで話し合い②全体で共有

4.教材:コーディネーター作成

5.流れ:①名前についてのワークシート記入②小グループで話し合い③説明文を書く④一人一人発表し全員でコメント、補足説明、意見などを出す⑤まとめ(コーディネーター)

6.学習者の作文例(ボランティアのアドバイスを得ての原文通り)

「今日はなまえについて勉強しました。自分の「なまえ」のいみをおしえてあげました。私の名前のいみは「すぐれている」です。しゅんさい(俊才)になりたいです。私は名前を漢字でじぶんでかけました。」

「ベトナムでミドルがある名前はたくさんあります。私の名前の意味はわかりません。たぶん「きょう」(協)です。名字の意味は皇です。天皇(てんのう)の皇です。私の名前について書く事はむずかしいです。」

7.特記事項

・「自分のよく知っていることを日本人に知らせる」という設定が学習者の積極性を引き出し学習者主導の活動ができた。

・ベテランのボランティアが良い聞き役となり、積極的に質問を行い会話が盛り上がった。

・ベトナム人学習者は、日頃意識しない自分の名前の漢字を振り返る良い機会となった。

・学習者の出身国(ベトナム、インド、タイ、中国)の名前について比較することができた。



### 取組事例②

【第20回 2016年11月1日】

1.テーマ:個人情報

2.目標:19回(マイナンバー)を土台にして①個人情報の重要性、危険性、管理方法を知る②自分の方法を見直し説明できる

3.授業形態:①学習者2~3人と日本人ボランティア1人の小グループでワークシート記入と話し合い②全体で共有

4.教材:本年度当事業で作成した教材から「私の秘密☆個人情報」を使用

5.流れ:①全体で学習テーマと個人情報という言葉の意味を共有②テキストに取り組む③テキストをもとに小グループで話し合い③全体で話し合い④自分の個人情報管理について書く④一人一人発表⑤振り返り

6.学習者の作文例(ボランティアのアドバイスを受けての原文通り)

「私はキャッシュカード、ざいりゅうカードなどなくしたことはありません。あんしょうばんごうやパスワードを決めました。たとえば携帯電話のばすわーどは、こいびとのたんじょうびとか、私のベトナムのでんわばんごうをつかいました。でんわばんごうがとられたら、まいにち電話をかけてくるかもしれません。こまります」

「私のパスワードは自分だけが分ります。他の人にとっていみのないばんごうです。学校の時、コンピュータがほしかったのですが買えませんでした。新しいタイプが出るたびにほしいと思いました。自分のほしいタイプのモデルのばんごうがパスワードになります。ですから、だれにも分かりません。安全だとおもいます」

7.特記事項

・多くの学習者がSNSに個人写真を載せることに抵抗がなかった。日本人ボランティアの「無断ならいやです」との対比がきわだった。意識の違いを引き出したことで、ボランティアと学習者ともによい学びとなった。

・「パスワードの決め方も(危ないから)人には教えない」という学習者の意見があった。意識の高さがうかがわれる。

・NHKの取材(2015/11/20テレビ放映)がはいったが、全員意識することなく、いつも通りの活動を行った。

・教室の様子がNHK広島放送局お好みワイド「お好みリポート」で紹介された。番組のホームページで1週間閲覧可能であったので、それを見た全国の日本語教育関係者から反応があった。



(9) 目標の達成状況・成果

1.検証方法:ABCDを総合的に評価した(A:コーディネーター作成のアンケート B:教室内で書いた作文、教室での活動状況 C:Facebookの利用状況 D:スピーチコンテストなど諸活動の状況)

2.達成状況:目標①②③について  
目標①:概ね達成できた  
ほぼ毎回、生活、文化、社会事情に関するテーマをカリキュラム案を参考に設定し教材を準備した。毎回日本人ボランティアと小グループ(または1対1)を作り、教材の読みと会話を1時間行った。  
目標②:概ね達成できた  
生活に身近な、インターネット、コンビニ、お盆、災害などで自国との比較を行い発表した。発表内容にボランティアが、積極的に質問したので、活発な会話活動を行うことができた。  
目標③:概ね達成できた  
「書く」活動を18回行った(1回15~20分)。参加延べ人数230人に対して提出数117で、ほとんどが5行(150字程度)以上であった。学習者の基礎日本語能力が高かったこともあり、目標③は概ね達成できたと考える。

3.事業全体の目的である「自国文化や自分の考えを発信するためのノウハウを得る」について  
(1)Facebookにおしゃべり型日本語教室のグループ(黒瀬、安芸津、西条の2教室と合同)を開設し、教室外での実践的な発信の場を提供した。上級者はコーディネーターの投稿に対して、コメントを積極的に書き込み、中級者は行事への参加表明、季節のあいさつなどを書き込んだ。メッセージ機能で個人的コミュニケーションを行う者も複数いた。発信→返信という「書き」によるコミュニケーションが可能となり、イベントへの参加の可否を調べるときなど実際に役立つようになった。  
(2)庄原市で行われたスピーチコンテスト(2017年2月7日)に2名が参加し、金賞と審査員特別賞を受賞した。2名はボランティアのサポートを受けつつ、5分間スピーチの原稿を独力で書いた。スピーチへの参加が、2人の会社で日本人社員との人間関係をさらに深いものにし、今まで以上に認められるようになった。このような発信を行ったことで、学習者の努力とそれを支えた地域日本語教室が会社の人々に認められた。「日本語教室に来て日本語を勉強し、いろいろな人と出会い、いろいろな経験をしました。スピーチのあと、会社の人との関係がよくなりました」という学習者の言葉は、本事業の目的である「発信」の成果を示していると考えられる。  
(3)Facebook「にほんごわいわいひがしひろしま」について  
①教室活動について、コーディネーターが活動報告を書き込んだ。  
②黒瀬教室の学習者は、自分の教室だけでなく、他教室の報告に対するコメントを書くことも多かった。  
③帰国した元学習者からのコメントもたびたび書き込まれた。交流関係を継続することが可能になった。  
④生きた日本語を書き発信する場として機能した。活動報告の投稿へのコメント以外に、行事の出欠確認、質問、学習者からの投稿、注意を促す投稿(爆弾事件)など、「書き」による多様なコミュニケーションが行われ実際に役に立った。  
⑤一部の学習者は「にほんごわいわい」にとどまらず、自分のアカウントにおいても日本人と日本語でコミュニケーションを始めている。

(10) 今後の改善点について

1.学習者の減少:前半と後半で学習者の数に大きな差が出た。参加者に技能実習生が多く、仕事の繁忙期には参加者が減るため学習者の変動が大きい。今後、一層周知活動を行う必要がある。ただし地域に密着した教室として、適正規模を目指していく。  
2.ボランティアの固定化:黒瀬教室のボランティアは継続者がほとんどであり、自主的に活動し、素晴らしい人材である。しかし新規の参加者は少なく、メンバーが固定化している。今後、新規ボランティアを開拓する活動を積極的に行う必要がある。  
3.学習内容:一定レベル以上の学習者には、今年度の学習内容、方法は有効であった。ただし初心者レベル(今年度は少なかった)の学習者に対応することも必要である。地域密着、ボランティアとの会話主体という二つの柱を掲げる教室である以上、学習者のレベルやニーズにあった多様な学習内容(教材)を準備しておく必要がある。  
4.SNS、Eメールの活用:回答を選択させたり、教室内で実際に書き込ませたりすることができれば、その後自分で書き込みができるようになるのではないかと。

## 6. 日本語教育を行う人材の養成・研修の実施

### (1) 講座名称

相手の話を引き出すコミュニケーション能力養成講座

### (2) 目的・目標

学習者が話したいと思う環境の作り方、学習者に意味のある話をさせる技術について知り、実践できる。

### (3) 対象者

次のような東広島市民

①外国人市民とのコミュニケーションに関心のある人 ②日本語ボランティアをしている人 ③日本語ボランティアに関心のある人

### (4) 使用した教材・リソース

講師が用意した資料。日本語支援の実践の様子を取ったビデオ(当事業団が作成)

### (5) 受講者の総数 143 人

#### 【出身・国籍別内訳】

|      |     |        |      |   |
|------|-----|--------|------|---|
| 中国   | 15人 | インドネシア | 1人   | ※他の国籍の場合は以下に国籍と人数を記載してください                          |
| 韓国   | 人   | タイ     | 1人   | マレーシア1人、ウズベキスタン1人、メキシコ2人、カナダ1人、アメリカ1人、スリランカ1人、インド1人 |
| ブラジル | 1人  | ペルー    | 人    |   |
| ベトナム | 3人  | フィリピン  | 1人   |   |
| ネパール | 人   | 日本     | 113人 |   |

### (6) 開催時間数(回数) 30時間 (全 10回)

### (7) 養成・研修の具体的内容

| 回数 | 開講日時                     | 時間数 | 場所                           | 受講者数 | 研修テーマ                                     | 授業概要  | 講師名  | 補助者名 |
|----|--------------------------|-----|------------------------------|------|---|---|------|------|
| 1  | 5月17日(日)<br>13:30~16:30  | 3   | 東広島市<br>市民文化<br>センター<br>研修室2 | 37人  | 外国人市民とのコミュニケーションを考えるー心地よい関係を作るにはどうしたらいいかー | 人間関係を作るうえでコミュニケーション力がとても重要。互いに理解し合える関係を築くには何が必要かを考察した   | 安田乙世 | 高 慧珠 |
| 2  | 6月14日(日)<br>13:30~16:30  | 3   |                              | 53人  | 傾聴のスキル                                    | 相手の話をじっくり聞くことが日本語サポートには必要である。その方法について述べた。   | 黄正国  |      |
| 3  | 7月11日(土)<br>13:30~16:30  | 3   |                              | 40人  | 学習者の発話を促す活動ー地域日本語教室で考えなければならないことー         | 「教える」という視点で日本語のサポートでどうしたら相手が話せるようになるのか、様々な事例をもとにワークショップも交えて考察した。                                    | 嶋田和子 | 奥村玲子 |
| 4  | 9月19日(土)<br>13:30~16:30  | 3   | コロボ<br>スクエア<br>会議室           | 27人  | 日本語があまり話せない人とのコミュニケーション①ーサポートするための日本語知識ー  | 日本語のルールについて考えた後、初級レベルの人とどうやって日本語で話したらいいか、その方法について考察した。  | 吉本由美 | 大竹麗芳 |
| 5  | 9月26日(土)<br>13:30~16:30  | 3   |                              | 30人  | 日本語があまり話せない人とのコミュニケーション②ーどう話を進めるかー        | 日本語が初級レベルの人と上手にコミュニケーションするための方法について、実際に日本語支援をしている様子をDVDで見せながら述べた。                                   |      |      |
| 6  | 10月3日(土)<br>13:30~16:30  | 3   |                              | 42人  | 日本語をあまり話せない人と話してみよう                       | 第4回、5回の内容をもとに、実際に入門、初級前半レベルの学習者と話し、振り返りを行いよりよい日本語支援について考察した。  |      |      |
| 7  | 10月31日(土)<br>13:30~16:30 | 3   | 東広島市<br>市民文化<br>センター<br>研修室2 | 26人  | 日本語がよく話せる人とのコミュニケーション①ーサポートするための日本語知識ー    | 日本語が中級レベル以上の人のサポートをする際に、学習者のどのようなところが課題か、どのような助言をしたらよいか様々な事例をもとに述べた。                                | 奥村玲子 |      |
| 8  | 11月7日(土)<br>13:30~16:30  | 3   |                              | 21人  | 日本語がよく話せる人とのコミュニケーション②ーどう話を進めるかー          | 日本語が十分話せる人と話すとき、どんなふうに話を進めたらいいか、どんなことを気を付けたらよいか、実際に日本語支援をしている様子をDVDで見せながら述べた。                       |      |      |
| 9  | 11月14日(土)<br>13:30~16:30 | 3   |                              | 32人  | 日本語がよく話せる人と話してみよう                         | 7回、8回の講座をもとに、身に付けたことを実際に使って中級レベル以上の学習者と話し、振り返りを行い、よりよい日本語支援について考察した。                                |      |      |
| 10 | 12月6日(日)<br>13:30~16:30  | 3   |                              | 11人  | 活動を振り返るー自分の活動を振り返るー                       | 各参加者がお互いの活動について語り合い、1回から9回までの講座を、自分で書いた振り返りシートを読み返しながら、講習会でどんな発見があったかを振り返り、今回の講習会でどのようなことを得たかを考察した。 |      | 間瀬尹久 |

## (8) 特徴的な活動風景(2~3回分)

### 取組事例①

【第5回 2015年9月26日】

日本語レベルが初級前半の学習者とボランティアが話している様子をDVDで見せながら、効果的な支援をするための方法について、特にどのように質問が相手の発話を促すか、その方法について示した。手順は次の通り。1. 日本語初級者を支援する際に気を付けること(やさしい日本語の話し方相手にもどのように質問するかなど)2. DVDを視点を与えながら見せ、考察させる。グループ討議なども行った。③講師から支援の際に気を付けることなどのまとめ④気づきなど「振り返りシート」(ポートフォリオ形式のアンケート)を記入

受講者の反応:「振り返り」に依れば、「一方的に教えるのではなく」「学習者の状況を理解して進める」「やさしい日本語で話す」「相手に話させる」などを学んだという記述があった。講習会の意図がある程度伝わったと思われる。



### 取組事例②

【第9回 2016年11月14日】

これまで講習会で学んだことをもとに、日本語レベルが中級以上の学習者と実際に話してみる活動。手順は次の通り。1. 前回まで学んだことについて復習。相手の発話を促すための方法(やり取りしながら進める、言いたい時に教える、教えすぎない)、相手の話をどう直すか(リキャスト、メモを取っておき後で示す、相手を見ながら、直しすぎないなど)について確認。2. 実際に学習者と2-3人のグループで話す。時間を区切って受講者が交代で学習者と話す。その際話していない受講者は、良かったところ、もう少し気を付けたほうが良いところ等を観察しておく。3. 受講者、学習者でわかれて、活動を振り返る。それぞれ気づき、感想を言い合う。その後全体で共有。4. 振り返り(ポートフォリオ形式のアンケートに記入) 5. 講師よりまとめ

受講者の反応:「楽しく話せた」「上手な人でも日本語を上達させたいのだ」「言いたいときに教える」「教えすぎない」「相手に合わせて教える」などが新しく学んだことの中に記述されており、日本語上級者と話す際にも、相手に合わせ、相手の知りたいことを知らせることの重要性を学んだようである。



## (9) 目標の達成状況・成果

目標は「学習者の話を引き出す」こと、その環境を如何につくるかに主眼を置いた講習会を行った。毎回受講者に「振り返りシート」の記入を義務づけ、最終回にはそれをもとに各受講者が得たことについて振り返った。その結果最後の講習会の振り返りには、「相手」の立場に立ち「聴く」「しゃべりすぎない」「やさしい日本語」を使った「コミュニケーション」が大切、おしゃべりを「楽しむこと」などの気づきが記載されており、今年度意図した「学習者の話を引き出す」ことについてはかなり意識化できている。また、講習会開始直後は「ただ楽しいばかりだった」が、次第に「難しさも理解しつつ私にもできるのでは」と思ったというような、心の成長も書かれていた。振り返ることにより、内容を再学習するだけでなく、客観的にその時考えていたことを分析できるという効果が見られたように思われる。今回振り返りシートの記入を毎回義務付けたことにより、その回の振り返りだけでなく全体的な振り返りもできた。今後も講習会の際にはこの手法を取り入れたいと考える。

一方受講生の満足度を見てみると、毎回、「目的に沿うものだったか」と質問をしたところ、述べ出席人数265人中「はい」と答えた参加者は241人であり全体の91パーセントを占めた。このことにより、受講者の満足度も高かったといえる。

## (10) 今後の改善点について

1. 参加者は毎回30人前後と予定の人数を達成しているが、最終回は11名の参加にとどまった。テーマを「振り返り」とした結果、新しい内容ではないと受講者が判断したためと思われる。しかし、前述のとおり、最終回である第10回に参加した受講者は、「振り返ること」が内容をさらに深く理解するために大切であり、自身の成長も振り返ることができると実感できたようであった。このことから、今後はこの振り返りの会においても多くの受講者となるような対策を立てたい。テーマの表示を魅力的なものにする必要がある。

2. 全10回の講座に6回以上参加した人は143人中21人となり、全体の14%にすぎなかった。せめて半数の人が全回出席するように、広報のあり方、開催日時、時間設定など再検討したい。「3時間は長すぎる。せめて2時間程度にしてほしい」という受講者の訴えもあった。時間設定についても考えたい。

3. 東広島市は外国人市民の人口が5200人を超え、さらに増加することが予想される。ボランティア養成の講習会を行っても、新規にボランティアをしようと思う人が少ない。どのようにすそ野を広げるかということが今後の大きな課題である。

## 7. 日本語教育のための学習教材の作成

### (1)教材名称

せいかつのにほんご はなそう・かこう

### (2)対象

東広島市内に在住する当事業団の日本語教室「にほんごⅠ」「にほんごⅡ」(どちらも授業30時間相当)を終了、または同等レベル以上の日本語学習者

### (3)目的・目標

- ①初級前半レベルの文型で書かれた日本語の文を読んだり、聞いたりして内容を理解することができる。
- ②①の内容について自分の感想・意見を相手に分かるように話すことができる。
- ③②で話したことを相手に分かるように書くことができる。

### (4)構成 (総ページ数: 161ページ)

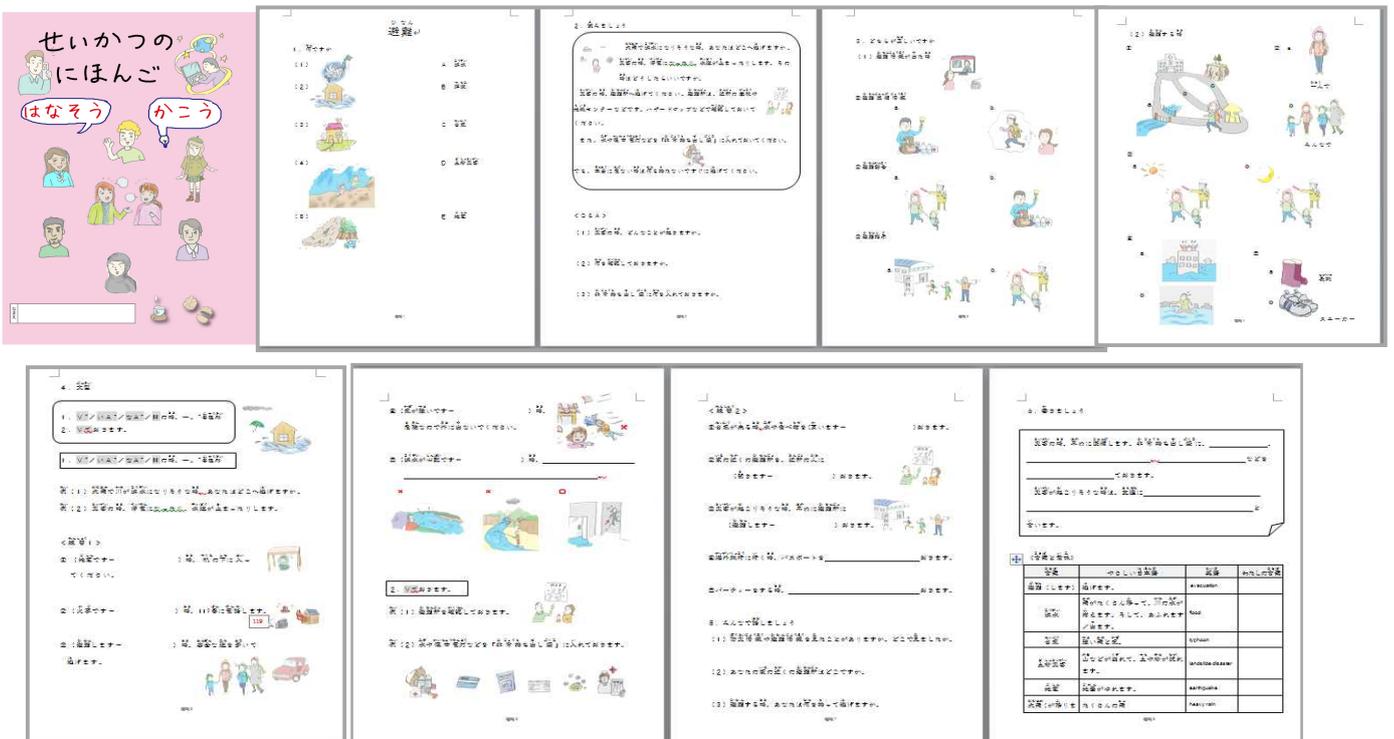
全体でトピックごとに単元を設け全体として15単元とする。1単元は4-6時間で指導する。各単元の構成は次の通り。  
 ①テーマの導入 ②文を読む ③内容理解のための設問 ④文型の導入、文型の練習 ⑤内容について意見交換  
 ⑥自分の意見や感想などを文型を使って書く ⑦さらに余裕があれば、facebookに分かったことや意見などを発表する。

### (5)教材の具体的な活用方法

当事業団で開催している日本語教室「にほんごⅢ」で使用。また、交流型日本語教室でも相当レベルの学習者がいれば使用する。

### (6)具体的な活用例

「にほんごきょうしつ東広島」(日本語教室が指導する教室)において、日本語Ⅰ(入門レベル)30時間、日本語Ⅱ(初級前半レベル)30時間を終了した学習者が参加する日本語Ⅲのクラスで使用。授業は次のような構成で行う。①導入:テーマについて示した絵などを見ながら話し合う。②読解:初級前半レベルの文型で、テーマについて書いた文章を読み、問いに答える。③文型について説明した後、文型練習④わかったこと、調べたことなど、ボランティアも交えながら、教室全体、または数人のグループで話す。⑤テーマについて自分の言葉で書く。その際できれば学習した文型も使う。⑥余裕があればさらにテーマに沿った分を読み、練習問題に答える。⑦facebookなど電子媒体に自分の意見を発表する。



\* ここには表紙および単元「避難」を例として記載した。全体では15単元ある。

## 8. 事業に対する評価について

### (1) 事業の目的・目標

東広島市内に在住する外国人市民が、生活するための日本語能力だけでなく、その日本語を使って、東広島に親しみを持つための知識を得、さらに自らの意見を発信するための日本語力を養う。

- 1.日本語を使って、コミュニケーションをすることで、外国人市民、ボランティア双方が地域の文化や習慣に関心を持ち、地域の一員であるという自覚を促す。また、自国文化や自分の考えを発信するためのノウハウを得る。
- 2.学習者の話を引き出すためのコミュニケーションの方法を知る。
- 3.初級中盤から後半レベルの人を対象とし、生活や地域文化を知らせ、それについて考えさせ、自分の考えを話し、書く能力を養成するための教科書を作成する。

### (2) 目的・目標の達成状況・事業の成果

1. 日本語教育:教室では、学習者が知っていれば生活が便利になったり、仕事をする上で知っていたほうがいいことなどを取り上げわかったことを記録したり、感想を述べあったりした。学習者の発表内容や書いたものに依れば、教室内で話したり書いたりはある程度できるようになったと言える。また、電子媒体(facebook)に日本語教室独自のページ(閉鎖環境)を立ち上げ、学習者、ボランティアが意見や新しい発見などを自由に載せ、閲覧することができるようにした。イベントの出欠などについては、意思を書くことができるものの、自分の意見を書いたり感想を述べたりすることは日本語レベルが比較的高い学習者しかできなかった。今後は、どのようにコメントをすればいいかなど、コメント例の紹介や、活動中にコメントを実際に掲載してみるなど、さらに実践的活動が必要である。
2. 人材養成:延べ参加者は264名、1回の参加者は11~53名が受講した。アンケート(振り返りシートの記載)によれば、「やさしい日本語を使ったコミュニケーションの必要性」「学習者の反応を見ながら聞く」「相手の話を引き出す」など、開催目的に沿った気付きがあった。また、これまでボランティアをしていなかった人が、活動に参加した例もあった。しかし、一方で、6回以上参加した人は21名であり、また、最後の10回の講習会を振り返る会では受講者が11名であった。どのように受講者の参加率をあげていくか今後の大きな課題である。
3. 教材作成:昨年度も漢字教材を作成し、今年度は2度目であった。日本語教室にかかわるすべての講師が、作成に携わった結果、教材作成のために討議を繰り返していくことで、地域日本語教室を進める上での目的や理念について話し合うこととなり、講師間の意思の統一が図れたことは大きな成果であった。ただし、実際に使用するのは来年度4月からであるため、作成した教材が日本語学習を促すか否かの検証は今後委ねなければならない。

### (3) 標準的なカリキュラム案の地域での活用について

教材作成では、当事業団で作成したこれまでのテキストで扱った内容をカリキュラム案と照らし合わせ、これまで扱えなかった項目をテーマ(トピック)に入れるように配慮した。社会的行為の項目、自分を表現する、インターネットを活用する、災害について知るのでは、(31)人と付き合う(46)インターネットを利用する(04)事故に備え対応する(05)災害に備え対応する を参考にして教材を作成した。

### (4) 地域の関係者との連携による効果、成果 等

外国人市民1名に運営委員を依頼し、外国人市民の心理や社会的状況を聞き取るよう配慮した。運営委員会では、外国人の視点からの意見を聴取することで、本事業だけでなく今後の当事業団の取り組みについても示唆に富む意見を聴くことができた。また、外国人施策担当課である市企画課とは連携を密にし、担当係長に運営委員を依頼するだけでなく、担当者にも当事業内容について助言を求め、人材養成や、教室活動への参加の呼びかけなどについて協力を得ることができた。さらに、日本語教室開催にあたっては、地域の漁業組合や、実習生受け入れ協同組合の担当者の協力も得ることができた。その結果、教室には漁業組合からボランティアの参加も得られ、時には学習者とのコミュニケーションの取り方など、教室コーディネーターが相談を受けたりすることもあった。また、参加学習者数が少なくなった時期にはそのボランティアが積極的に参加を促してくれるなど、信頼関係が構築できた。

このような成果が上がったことで、文化庁の助成金が終了しても、引き続き東広島市南部2地域で教室活動が行えるよう、企画課担当者が東広島市に働きかけ、来年度も日本語教室が開催できるだけの予算が確保できた。これは大きな成果である。

### (5) 事業実施に当たっての周知・広報と、事業成果の地域への発信等について

東広島市広報誌、電子媒体としては当事業団のホームページ、facebookを活用した。さらに、当事業団に登録している国際交流ボランティアにはチラシなどを郵送。日ごろの活動に積極的に参加しているボランティア等にはメーリングリストでの広報なども行った。

また、日本語教育では常時facebookで活動状況を知らせ、それについての感想や意見など、学習者、支援者から寄せられた。日本語教室やボランティア講習会の存在を地域住民に知らせるためにも今後もfacebookなど電子媒体を活用したい。

黒瀬教室では、学習者が近隣地域のスピーチ大会に出場し、会社の人に対する感謝のメッセージを発表したことから社内での人間関係がより深まったという例もあった。これからもさらにさまざまな地域活動に参加していく学習者を増やし、外国人市民がボランティア活動に参加するなど、日本語教室の学習者が地域社会の一員として参加できる活動や行事を積極的に参加者に知らせ、彼らが地域住民に顔の見える存在になるよう、考えていきたい。

このように今後は、日本語教育事業をもとに、外国人市民を受け入れる地域住民をも巻き込んだ多文化共生社会推進を目指した活動へと発展させていければいいと考えている。

(6) 改善点、今後の課題について

1. 日本語教育

・2教室とも、技能実習生の参加が多く、特にベトナム人の参加者が多い。使用する教材は都度教室コーディネーターが作成しており、ベトナム語の翻訳が必要となる。今年度はベトナム語話者の教室補助者に頼ることができたが、本事業終了後は、機械翻訳に頼るしか方法がなく、教室活動における指示などは時に伝わらないことが予想される。今後は、参加者同士のピアティーチングなどの手法を取り入れるなど工夫が必要である。

2. 人材養成

・ボランティア養成講座への参加者は毎回30人前後であるが、複数回参加する人は少なく、今年度全10回の講習会で、6回以上参加した人は143人中21人であった。シリーズで行うものは目的に沿った内容構成となっている。できるだけすべての会に参加してほしいがなかなか難しい。事前に各教室、電子媒体や文書で知らせるなどこれまでも行ってきたが、新しい方法があればそれを使うなどして、広報をさらに強化したい。

・学習者の人数が今後も増えることが予想されるため、ボランティアのすそ野を広げることも必要である。外国人市民との交流に関心のない市民と外国人市民との接点をどのように作っていくかが課題である。

3. 教材作成

・作成の過程で、講師間の理念の統一ができたことは前述した。来年度以降この教材を使用し、不具合などがあれば、講師間で話し合い解決していきたい。また、今後はこれまで作成してきた教材についても順次改訂できるよう、講師間の連絡を密にし、これまで以上に話し合いがしやすい環境を作っていきたいと考える。

(7) その他参考資料

・人材養成講座受講者振り返りシートまとめ